

令和7年4月

## 令和7年度の改善方策

世田谷区立弦巻中学校  
校長 加藤 ユカ

令和6年度の「学校関係者評価委員会報告書」を受け、令和7年度の重点目標を以下のように定め、工夫・改善に努める。

### (1) 【優心】

- ◎共生社会の実現に向けて、人権課題を自分事として考え、多様性を尊重しながら共に学び、多様な価値観に対して共感できるようにする。
- 人権教育の推進を図り、優しく他人を思いやることを心がけて人と接し、人や社会の力になることができるようする。

### 【優考】

- ◎キャリア・未来デザイン教育の実現のため、「せたがや探究的な学び」の質的改善を図り、自分の人生をデザインしながら自分らしく学ぶことができるようする。
- ◎主体的・対話的で深い学びの実現のため、教育DXを推進することでICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ◎社会に開かれた教育課程の実現のため、地域社会と連携・協働した教育活動を推進する。

### 【優健】

- ◎働き方改革を推進し、教員の「ウェルビーイング」の向上を図り、生徒に対して効果的な教育活動ができるようする。
- 運動やスポーツに親しむ取組を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力を育む。

### (1) 具現化のための方策

- ・「マナー・あいさつ・言葉づかい」の指導の徹底を図る。
- ・人権尊重の精神に基づく人権教育の推進を図り、優しく他人を思いやることを心がけて人と接し、人や社会の力になることができるようする。様々な機会を設けて「優しく思いやること」について考える教育活動を体系的に実施する。
- ・人権尊重教育推進校での2年間の研究を生かし、3年間を通じた「人権・平和学習」を体系的に実践するとともに、様々な人権課題について、自分事として考え、行動していくことができる生徒の育成を図り、多様性を認め合う感性を醸成させる。
- ・生徒の不登校を未然に防ぐために、学び舎の小学校・幼稚園と連携保育園・幼稚園との連携を図り情報を共有し、また、スクールカウンセラーや関係諸機関と協力して、配慮を必要とする生徒との

面接を行い、生徒に寄り添うきめ細やかな指導を行う。また、生徒・保護者を支援する相談体制などを整える。不登校巡回教員と連携した取り組みを推進していく。

- ・不登校生徒については、スクールカウンセラーや関係諸機関と連携を図り、保護者と連絡を密にし、問題を把握し解決に向かい、生徒に寄り添う指導を行う。また、授業のオンライン配信やタブレット端末の学習アプリケーションソフト等の活用をすることで、自宅に居ながら学校と繋がれるよう工夫する。
- ・「世田谷区教育委員会いじめ防止基本方針」、「弦巻中学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止対策委員会を中心に全教職員・スクールカウンセラー・関係諸機関が一体となり、いじめの予防や早期対応、解決へ向けた対応を組織的に行う。
- ・生徒会を中心として地域清掃や落ち葉掃きなどのボランティア活動の充実を図り、地域の一員としての意識や自覚を高め、社会に貢献する意識を育む。また生徒による避難所運営を考慮した組織（TSA : Tsurumaki Student Aid）を編成し、その活動を広報することで、生徒や地域の防災意識を高めていく。
- ・地域等人材を活用し、文化芸術・スポーツなどの分野で専門家を招聘し、本物体験授業を定期的に実施し、子どもたちの豊かな心を育む。

●学校関係者評価アンケート（学校独自項目）の集計結果と、生徒の変容をもって、評価・検証する。

## （2）具現化のための方策

- ・個別最適化の学びと協働的な学びの一体化の充実を図るために、ICTを有効に活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業をすすめると共に、学んだ知識や技能を活用して考えたり議論したり、発表する時に豊かに表現する力が身に付くようとする。さらに、ICTを効果的に活用することで「せたがや探究的な学び」に向けた授業改善を推進する。
- ・キャリア・未来デザイン教育として「キャリアパスポート」等を活用し、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力といった基礎的・汎用的能力を、発達段階に応じて育成するとともに、社会と職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を実施することでキャリア教育の充実を図る。また、生徒の社会的・職業的な自立に向け、各教科・領域等で人間関係や社会を形成する力、課題に対応する力、論理的な思考力や自ら主体的に判断する力などを育み、自分の役割や将来の生き方、働き方について考えていくことができるような指導を行う。
- ・各教科の取組を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、言語活動を推進し、思考力・判断力・表現力等を育成する。また「全国学力学習状況調査」をはじめとした各調査の結果を活用し、校内及び学び舎で「確認会議」を行い、生徒の実態を把握し課題を抽出するとともに、課題解決的な学習の展開を計画する。そのために、教育DXの推進としてICTを効果的に活用することで「せたがや探究的な学び」に向けた授業改善を図る。

- ・特別な支援や配慮の必要な生徒や、特別支援学級の生徒、副籍生徒との交流などを通して、個性や能力、発達特性等の多様性を理解するとともに、個々の教育ニーズに応じた教育の充実を図るための指導方法や内容を工夫していく。

●学校関係者評価アンケート（学校独自項目）の集計結果と、生徒の変容をもって、評価・検証する。

### （3）具現化のための方策

- ・日頃から「快眠・快食・快運動」など健康管理や体力を向上する習慣が身に付くようにする。
- ・非認知能力の育成をするために、構成的グループエンカウンターなどを取り入れたソーシャルスキルトレーニングを、全学級で実施する。
- ・健康を保持・増進する能力を育成するために、「快眠・快食・快運動」を奨励して、健康への意識を高める。また、食育を通して食に対する意識を高める。さらに、生涯の体力や運動能力を保つために、よりよい生活習慣や運動習慣を身に付けるようにする。
- ・プロのダンサーやアスリートなど本物体験授業を実施し、スポーツの楽しさを実感する授業を行う。
- ・教師の「ウェルビーイング」の向上を図る、働き方改革の推進を行う。

●学校関係者評価アンケート（学校独自項目）の集計結果と、生徒の変容をもって、評価・検証する。